深 圳 レ ポ ー ト

2019年深圳チェーン企業レポート
深圳発のチェーン企業、全国で累計8万軒を出店

ポイント:

●「深圳チェーン経営協会」とは?

●深圳のチェーン企業は2019年8月14日時点で全国で累計8万軒を出店

●深圳のチェーン業界ではマルチチャネル・マーケティングが一般的

深圳市智慧零售协会
深圳市连锁经营协会
深圳市零售商业行业协会
零售连锁业发展强效助推平台

▲深圳チェーン経営協会のサイト
http://szrba.org/

「深圳チェーン経営協会」とは?

「深圳チェーン経営協会（深圳市連鎖経営協会）」は深圳市の小売業、サービス業、関連機関等で構成されている協会で、深圳市民事務局に登録されており、その管理下にある組織だ。会員企業数は200社余り、会員数も約30万人と規模は大きい。会員企業には様々な大企業、中小企業、レギュラーチェーン企業、フランチャイズ企業等が含まれている。

「深圳チェーン経営協会」の主な機能と役割は、産業発展の調整、市場調査活動の実施、様々なイベント（プレゼンテーション、セミナー、政策相談会等）の開催が含まれている。

「深圳チェーン経営協会」によると、深圳のチェーン企業は2019年8月14日時点で全国で累計8万軒を出店している。中でも大手チェーン企業の「天虹」「歳宝」「茂業」「順電」「百果園」等は「全国進出」を加速させており、傘下の店舗を全国展開することで、商業小売分野で注目を集めている。

深圳の代表的な小売チェーンを紹介

1.百果園（PAGODA）

「百果園」は2001年12月3日に深圳で設立された企業で、今や中国人ならば誰もが知る有名ブランドだ。

同社はフルーツの生産、貿易、小売を統合したフランチャイズ企業であり、フランチャイズチェーン店、ファーム、ECプラットフォームを有する。現在、全国70余りの都市で3700軒以上のチェーン店を展開し、20余りの倉庫・配送センターも設置。国内外200以上のファームと緊密な協力関係を結んでおり、全国5000万人以上の会員に新鮮で美味しい世界各地のフルーツを提供している。

▲「百果園」のオフィシャルサイト
http://www.pagoda.com.cn/

▲「天虹」のオフィシャルサイト
http://www.tianhong.cn/

2.天虹（RAINBOW）

「天虹」は1984年5月2日に深圳で設立され、全国に店舗を構える小売チェーンだ。2019年3月時点で、北京、広東、福建、江西、湖南、江蘇、浙江、四川を含む8つの省に68の総合百貨店、13のショッピングセンター、81のスーパーマーケット、156のコンビニエンスストアを展開している。

「天虹」は顧客ターゲットのニーズに基づき、総合百貨店やショッピングセンター、スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の様々な小売業態、「親和、信頼、生活を楽しむ」というコアバリューを持つブランド（「天虹」「君尚（dreams-on）」「sp@ce」「微喔（Well）」の4つの主要小売ブランドを有している）を構築している。「天虹」は総合百貨店の店舗数が中国で最も多い小売業者で、オンライン／オフラインを統合する小売のデジタル化にも積極的な企業である。

3.順電（SUNDAN）

1992年に深圳で設立された「順電」は、電気製品の販売を専門とするオンラインおよびオフラインの小売チェーン。2014年11月12日に上場している。

「順電」のビジネスは主に3つのセクター（オンラインモール、大型家電量販・実体験店、「設郷味」ホームベースの家庭用品・実体験店）に分けられている。

「順電」は高級家電分野に力を入れており、国内最大級の高級家電量販店になることを目標に掲げ、顧客に高品質なサービスを提供している。現在、国内に39店舗展開しており、商品はグローバルブランド、輸入品、ハイエンド製品を中心に取り揃えている。「順電」で商品を購入した場合、30日以内の返品サービス、全国保証補修サービスが受けられ、消費者の支持を集めている。

深圳チェーン小売業界の特徴

深圳の小売チェーンは全国にショッピングセンター、デパート等をオープンさせることで、数多くの深圳発のブランドを全国レベルで浸透させてきた。

深圳小売チェーン業界は、スーパーマーケットやデパート、コンビニ、薬局、レストラン、ホテル、自動車販売、ジュエリー・アクセサリー、衣類および履物等、ありとあらゆる業態、サービスをカバーしている。

また、深圳の小売チェーンは、直営とフランチャイズを組み合わせるとともに、マルチチャネル・マーケティングを導入している。全国で展開している直販店およびフランチャイズ店には統一された管理システムが導入され、完璧なトレーニングおよび管理・監督を通じて、市場動向に沿った戦略を打ち立て、企業競争力を高めている。

参照リンク:

1) http://sz.people.com.cn/n2/2019/0815/c202846-33251142.html

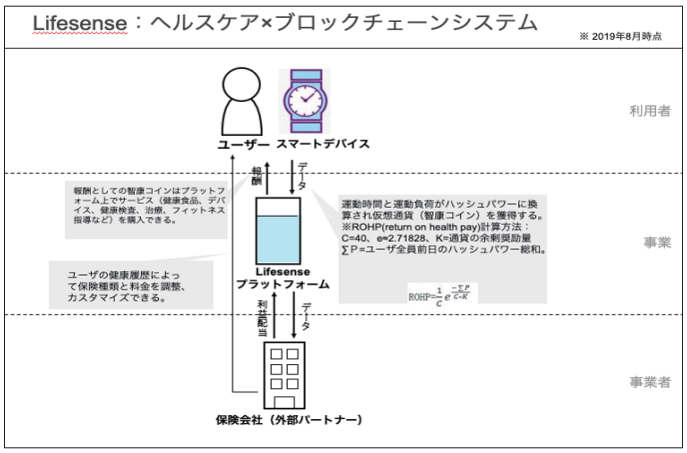
2) http://www.sznews.com/news/content/2019-08/15/content_22388040.htm

3) http://t.cn/Ai8Wa0u7

ヘルスケア×ブロックチェーン
～スマートウェアラブル業界のダークホース～

社名	深圳市楽心医療電子有限会社		英語名	Shenzhen Lifesense Medical Electronics Co.,Ltd.	
代表者	麦炯章		URL	http://www.lifesense.com/	
所在地	深圳市南山区高新南一道 009 号中国科技開発院中科研発園三号楼塔楼 19 楼 A 室				
売上 (RMB)	7.5 億 (113 億円)	従業員（人）	50-99	創業年	2010.02.10
資本金 (RMB)	2000 万 (3 億円)				
サービス内容	スマートウェアラブルデバイスと移動医療の総合ソリューションを提供				

●「スマートウェアラブルデバイス」と「モバイルヘルスケア」の2つを軸に展開している。
●主要製品としては、ウェアラブルスポーツブレスレット（ウオッチ）、スマート体重計、電子血圧計などハードウェア機器を展開している。
●自社でヘルスケアプラットフォーム「楽心雲」を運営し、「楽心運動」「楽心健康」「楽心医者」などのアプリを展開している。
●医師側がアプリを通じて、ユーザーの血圧、血糖、睡眠、運動と他の健康データをリアルタイムで把握、オンラインで効率的に慢性疾患の管理と診断、必要に応じて治療などのアドバイスを行うことができる。
●深圳市の羅湖病院グループなどの有名医療機関と協力して、オンラインの慢性疾患ケアコミニュティを設立、ユーザー・lifesense製品・第三者医療サービスもシームレスに接続できるようにしている。
●現在ブロックチェーン・保険・心血管疾患分野での提携計画も進行中。

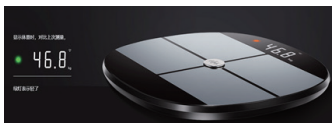


■業界ポジション：
長年モバイルヘルスケアの実績を提げブロックチェーンに参入する最初の上場企業

●2014年、WeChatとの戦略提携を結ぶ。これはWeChatと連携した最初のスマートハードウェア事例で2年後にテンセントから優秀パートナーに選ばれた。

●2015年のデータでは、lifesense社製品の総販売量は1,080万台で、そのうち338万台がスマートデバイス。IDCのデータ分析レポートによると、2015年第4四半期（10月～12月）に80万台が出荷され、初めてアップルウオッチを上回り、小米（シャオミー）に次いで中国の2番目に大きなブランドになり、市場シェアは10.1%を占めた。（現在は国内3位）
2016年、スマートウェアラブル製品の出荷数は世界第5位。
●インターネット分野では、「楽心雲」というヘルスケアケ系プラットフォームを構築し、数百万人に及ぶユーザーのスポーツデータ、健康データの収集・保存・分析を行い、パーソナライズスポーツプランや健康管理などのカスタマイズされたサービスを提供。また、JD、WeChat、百度クラウドなどの大手企業と共同開発をしたスマートデバイスを販売している。
●スポーツブレスレット、血圧計、体脂肪計、電子体温計などの製品は、度々ドイツのiF工業デザイン賞、ドイツのreddotデザイン賞を受賞。
中国でNMPA認証（日本の厚生労働省医薬食品局に相当）を取得した最初のECG（心電図）モニタリングスマートウオッチを2019年下半期に販売予定。
●ユニークなサービスとしては2018年、ブロックチェーン企業と提携でスマートウオッチを作り（心拍数計測、睡眠管理などの機能を標準装備）ユーザーのスポーツデータをクラウドにアップロードして、運動報酬としての仮想通貨を取得できる仕組みを構築した。
この仮想通貨を使い医療サービス、保険などを購入できる仕組みになっている。

▲健康管理プラットフォーム


▲スマート体重計
（体重、体脂肪、骨量、BIM、筋肉、水分）

▲“智康宝”
ブロックチェーン
ブレスレット

▲スマート血圧計

▲Lifesense
health watch

コンサルタントEYE

「深圳の投資説明会」参加レポート

唯来企業管理咨詢（深圳）有限公司
副総経理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。現在はクロスボーダーM＆Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M＆Aサービス担当。

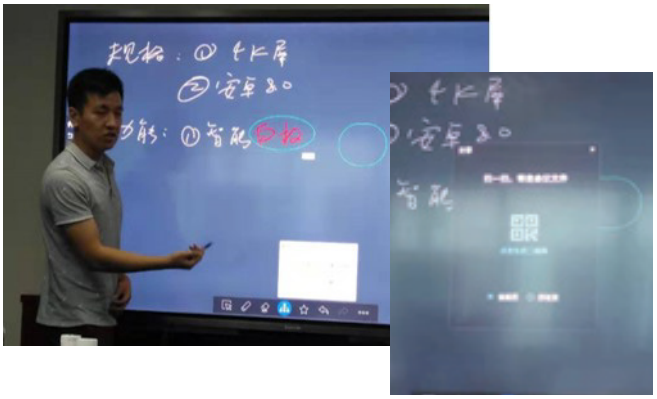
中国におけるVC別投資件数ランキングによると、2018年の1位は、148件のテンセントであった。

このテンセントが本社を構えている深圳では、テンセント以外の投資家、投資会社とベンチャー・スタートアップ企業の間で、日々、様々な形でマッチングが展開されている。

エンジェル投資段階では小規模の投資説明会（ピッチコンテスト）がよく開催されるが、平日の仕事に影響が出ないよう、週末におこなわれることが多い。また、だいたい3時間ぐらいの時間の中、プレゼンに1時間、質疑応答&交流に2時間ぐらいを配分するので、準備作業に時間がかからないのと、参加者も効率的なのが特徴である。

ひとつ、実例をご紹介しよう。

まず、メインのプレゼンに先立ち、スポンサー企業である電子黒板（スマートホワイトボード）企業の担当者が5分ぐらい自社の製品を説明。このように、投資説明会でありながら、既存製品のデモセールスもよくある風景である。



▲会議記録をQRコードで来場者にシェアすることができる。

いよいよ、本場のロードショーが開始。写真左は大学生をターゲットしたオンラインビジネスで、右はダイヤモンド金融商品のビジネスであるが、いずれもブロックチェーン技術を導入しての展開である。要素技術のブロックチェーンが、いよいよビジネスとして多方面に展開されていく勢いを感じた。

そして投資希望額のプレゼン。たまたまかもしれないが、いずれも500万人民元（約8千万円規模）であった。調達額としては決して高額ではないといえる。

プレゼン後は、投資家から鋭い質問の集中攻撃。なかなか質問の手があがらない日本とは異なり、白熱したやり取りが繰り広げられる。しっかりしたビジネスプランとプレゼンテーション能力が必要であることは当然だが、こういった場面で若手経営者は鍛えられていくのだろう。

2018年、中国のVC投資額は938億ドルとなり、アメリカと逆転して世界第一位となった。中には、億を超える投資案件もあるが、このような20人未満・非公開という中で投資を募集している案件もかなりある。およそ1カ月で投資募集は終了するが、そのスピードの速さと回転も深圳のエコシステムを活性化させている要素なのだろう。

（レポートは2019年8月16日現在の情報）

MICS

深圳未来創新服務中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区軟件産業基地5E棟522号　518061
TEL:86-135-3089-3085
https://micsz.jp/